



プロバスだより

2012年2月9日発行

第195号

<http://www.tokyo-hachioji-probusclub.jp>

東京八王子プロバスクラブ

編集・発行：情報委員会

創立 1995年10月18日

創立 15年余、会員の努力で培ってきた叡智を、

2011～12年度テーマ

次のステージで躍進の糧としよう

第195回例会・新年懇親会

日 時：平成 24年1月12日(木) 16:00～20:15

場 所：八王子エルシィ

出席者：60名 欠席者10名 出席率85.7%

(会員総数70名 休会0名)

第一部:例会 (16:00～18:30)

1. 開会 有泉例会委員長の司会で開会

本日の資料の紹介と出席状況報告があった。

2. 挨拶 佐々木会長

皆様、明けましておめでとうございます。会員全員が先ずは元気に新年を迎えられたことを心から喜んでいます。

一方、内外多難な年でもあります。EU 発の経済不安の暗雲が世界を覆っており、日本では円高とそれに伴う製造業の不況で、空洞化と雇用不安があり、更には景気回復が遅れています。

大震災の復興は進んでいます。原発事故の深刻な影響は続いています。また少子高齢化の進展に伴い、税と社会保障の一体改革が焦点となっています。

八王子市では、JR 八王子駅南口の再開発が終わり、立派な町並みが出来あがりましたが、1月には北口のそごうが撤退し、50万都市にデパートが無い事態となるのは残念です。

1月22日の八王子市長選挙で市長が交代しますが、新市長と当プロバスクラブとの良好な関係構築が必要かつ重要となります。

東京周辺でも人口減少の市町が目立ってきたとの報道がありました。八王子市は幸いにも人口は増加しています。当クラブも微力ではありますが、八王子の発展に寄与して行きたいものです。

3. ハッピーコイン披露

佐々木会長からハッピーコイン (後掲 21件)

の披露がありました。

4. バースデー報告 ・バースデーカード贈呈

会長より1月のバースデー報告(大野聖二、河合和郎、下田泰造、下山邦夫、武田洋一郎、寺田昌章、中野義光、米林伸恭の8会員)と池田会員作成のバースデーカードが全員に贈呈された。



5. 幹事報告 永井幹事

早いもので、今期も残り半年となりました。出来るだけ皆様のためになる楽しい企画運営を行って参りますのでよろしくお願い致します。

埼玉浮き城プロバスクラブ(PC)の創立記念パーティが来週ありますので行って参ります。更に2月早々に鎌倉PCが10周年記念式典を行うのでお祝いに行きます。これらの例のように近隣PCとの交流を深めています。

6. 委員会報告

(1) 例会委員会 有泉例会委員長

出席状況報告(前記のとおり)。

(2) 情報委員会 馬場委員長

「プロバスだより」195号には武田様、杉山様の投稿文が載っています。掲載遅れのため、武田様の投稿文の出だしにある「今年」は昨年のことですので読み替えてください。次に「生涯学習サロン」の話し手の皆様に、情報委員会からのお祝い事項をお届けしましたのでご確認ください。

(3) 会員委員会、(4) 研修委員会 共に報告なし

(5) 地域奉仕委員会 田中委員長

生涯学習サロン関連で3点あります。第一：会員以外の方々へ「生涯学習サロンへのお誘い」を1月5日発送しました。第二：約10名の会員が「生涯学習サロン」の聴講希望アンケートを未提出ですので、本日提出してください。第三：「生涯学習サロン」話し手の方へお願いと調査依頼事項があります。内容と解答欄を記した文書をお届けしましたので、回答をお願いします。

(6)交流担当関係 山崎理事

配布資料「全日本プロバス協議会 第1回関東中央地区交流会 実施報告書」を是非お読みください。本件は下山様と荒様に編集して頂きました。

7.「宇宙の学校」報告(1) 下山運営本部長

後ろの壁に、開校式と2回のスクーリングのナップ(武田会員、市川会員撮影：キャプション付)が掲示してあります。写真で見ると子どもたちの、元気で生き生きした感じが良く伝わります。是非ご覧ください。また後に八王子テレメディアで紹介された3分半の映像をご覧ください。動きと音が入りさらにその雰囲気伝わります。

でも、皆さん是非今度の1月15日の最後のスクーリングの日に来てみてください。場所は八王子市教育センターの大会議室です。13時30分開始し、前半はスクーリングで実験を行います。後半は閉校式で、的川先生のお話と、子どもたちの家庭学習の経験発表です。「宇宙の学校」では家庭学習を重視しており、親子が家庭で行う実験や観察の教材を提供しています。

子ども達とその親がどのように話し、取り組んでいるか、それを感じ取って下さい。我がクラブからの大勢のスタッフが協力して準備しました。正にプロバスクラブの新しい奉仕活動です。生涯学習サロンに加えて、プロバスクラブの誇りある活動となっていく事を確信します。

現場では、スコール家庭教育振興会の若いお母さん方、拓殖大学の学生、都立桑志高校の生徒、サイエンスドーム八王子の職員及びそのボランティアの皆さん、そして子ども・宇宙・未来の会=KU-MAの先生方、それぞれが協力しあい、コラボレーションしている姿をぜひ見て下さい。

地域での新しい奉仕活動の在り方として、地域共同しての子育て、子ども教育への試みを見て頂

きたいわけです。

そしてKU-MAの理念「命の大切さを導きとして、子どもたちの心に火をつける」がいかに実現しようとしているかを見て下さい。まだまだ緒に就いたばかりで未熟さだらけです、ご意見を寄せて頂ければ有難い。

それではテレメディアのニュースをご覧ください。(終了後)ご清聴ありがとうございました。

「宇宙の学校」報告(2) <第3回スクーリング>

吉田 信夫

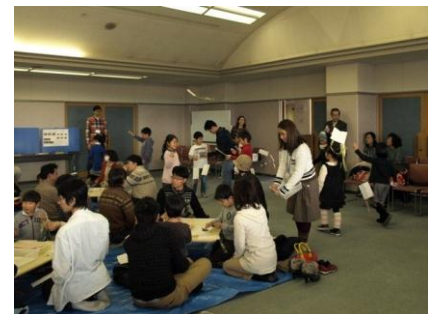
平成24年1月15日(日)、第3回スクーリングが教育センターで行われました。参加者は応募者80組に対し71組でした。教室は前回と同じ午後1時30分より、午後3時30分までの2時間行なわれました。

この日は、「ふわふわスチロール凧」と「種を飛ばそう」に取り組みました。



スクーリング終了後、参加のこども達による「家庭学習成果発表会」を実施。その後、特別にご出席頂いたKU-MA会長の的川泰宣先生から「日本人の心」の題でお話がありました。最後に閉校式をもって、第1回八王子「宇宙の学校」が終了いたしました。—ふわふわスチロール凧—

ここではペーパースチロールを使って凧を作り、飛んだり浮かんだりを確認しました。凧はスチロールペーパーの上から3分の1ぐらいまでをたて半分に



折り、山折にした方の上から4分の1ぐらいの処に、糸をセロファンテープで止めます。そして、①このまま凧を揚げる②すずらんテープをつけて揚げる③テープの長さによって上がり方が違うこと、を知りました。

こども達はスクーリング会場に設けられた巡

回コースを廻って凧を揚げ、大いに楽しみました。凧は糸の取り付け位置、左右のバランスなどによって「浮き上がる」様子が変わるので、そのコツを少し理解したようです。

宮城安子会員による和やかなリラクセス体操の後、次のテーマに取り組みました。

—種を飛ばそう—

始めるにあたって、山下法昭先生が、アルソミトラの種は、世の中の種の中で一番遠くまで、1000 m ほど



飛ぶこと、これも種（しゅ）の保存のためと云うことで、「いのち」の大切さにふれられました。

ペーパースチロールを柔らかく二つ折りにし左右対称になるような空を飛ぶもの（鳥、虫、蝶、ハート型など）を切り抜きます。まず、このまま飛ばしたり、コルクを 1cm 角に切り先頭の方に貼り付け、錘を付けて飛ばしたりしました。

こども達はコルクを追加したり、コルクの貼る位置によって、種の飛び方が違い、上手く調整すれば、真直ぐスムーズに飛ぶことを確認したようです。

—家庭学習発表会—

この後、こども達による家庭学習の発表会を行いました。開校式の際、参加者に配られた 37



種類の教材がもたっています。発表は 10 グループに分かれ、一人ずつ 3 分程度発表しました。発表者は 45 名で、発表テーマも 25 種と多様にわかれしました。元気良く発表するこどもや、少しもじもじする子など、いろいろでしたが、発表前と後には皆で拍手で盛り上げましたので、こども達には良い経験になったと思われます。

—的川泰宣先生の講話—

「日本人の心」と題して次のようなお話をして

下さいました。

『日本人は自然と多く係わっています。科学する心と自然環境について関心を持っています。金子みすずの詩には、日本人共通の心が詠われています。即ち「世の中のもの全ては、みんな違っているがみんないいと思う心、大切にしたい心」です。研究にはその動機としての情緒が何よりも大切であるということです。

東日本大震災後、米国の友人がメールに「日本人は素晴らしい。米国・中国・ハイチでは、ハリケーンや地震の後、物資の配給で暴動的な争いがおこったが、日本ではきちんと行列して待っている。」と書いてきました。ここにも日本人の心の一端が見えます。

テナー歌手ブラシド・ドミンゴは大震災直後、多くの芸術家が来日をキャンセルする中で「音楽を届けることで、少しでも日本人の力になりたい」と来日し、プログラムの最後には「ふるさと」を歌ってくれました。福島原発事故により、科学技術への不信感が出てきていますが、ドミンゴの歌を聴いて科学技術への信頼感を取り戻し、人々を元気づける科学技術を目指したいし、そういう科学者・技術者を育てたいと強く感じました。

日本は経済規模では、中国には既に追い越され、やがてはインド、ブラジル、インドネシア等に抜かれるでしょう。過去の日本は受け入れたものを消化してさらに磨き上げる事に優れた才能を発揮しました。これからは世界に対して与える事、どう貢献するのかと云う心を持ってほしいと思います。

未来をつなぐことが「宇宙の学校」設立目的です。「宇宙の学校」は単なる科学教育の場でなく、物の考え方、見方を磨く場です。「宇宙の学校」は北は網走から、南は那覇まで、40 校近く開かれています。八王子はその中の拠点になるような形になってほしいと思います。』

—閉校式—

的川先生より参加者を代表して、この日一番最初に来校したこどもさんに修了証が手渡されました。続いて下山運営本部長から、全ての日程が無事に素晴らしい内容で進行したとの報告とともに閉校宣言がありました。

8. 同好会報告

お茶の会、ゴルフ同好会、歴史の会、写真の会、囲碁の会、麻雀クラブ、美術鑑賞の会、旅行クラブ、俳句の会、いずれも報告なし。

9. その他

野口会員から、本日配布の「プロバスだより」の卓話内容の修正依頼があった。(4 頁右欄下から 18 行:「蝶も持っています。」→「蝶にも強い興味を持っています」)。

10. 特別講話「宇宙と大地の謎を追って」

講師 平澤 正規氏

ご略歴: 1955 年福島県福島市生まれ。早稲田大学理学科地学専修卒。宇宙飛行士の土井隆雄氏は大学の部活の先輩。横浜の高校生時代から天体観測を始め陣馬山で合宿をされたのが八王子との最初の縁だそうです。1985 年ハレー彗星の接近に合わせ、星の仲間 50 人と協力し南アルプスに入笠山天体観測所を建設されました。ここで教材用の天体写真を撮る傍ら 52 個もの新しい小惑星を発見され、それらに高尾天狗、夕やけ小やけ、ダイダラボッチなどの名をつけておられます。現在は、都立富士森高等学校主幹教諭の任に着かれています。



(平澤先生は、ご講演テーマに限りない興味をお持ちのご様子が伺われ、情熱あふれるお話しぶりで 100 分にも及ぶ講演をしていただきました。会員一同は私語をすることもなく、星の話には目を光らせながら聞き入り、地震の話には近未来の大惨事の可能性情報に不安と安堵感の間を揺れ動きながら傾聴しました。沢山の映像、図表を駆使された内容を採録するには、数 10 ページに及ぶ紙幅が必要となると思われます。ここでは、先生の意図を採録することを主眼に、レジュメの大項目を中心に主として口頭で補足された内容を記録させていただきました。)

1. 心を揺さぶる天文現象

宇宙の美しさについてお話しいたします。

①昨年(2011 年 12 月 10 日)の皆既月食を見ま

したか:

- ・欠ける前の満月と皆既月食の明暗差は約 1 万倍にもなる。
 - ・皆既食の前後では明るさは非対称:理由を生徒たちと検討中(現在 2 つの仮説あり。月面の海と陸による差、月面の熱ヒステリシスによる差)
 - ②今年(5 月 21 日)は八王子で金環日食を見よう:
 - ・地球と月の距離は 36 万 km~41 万 km と変動するので皆既食や金環食になる。
 - ・過去八王子では 1839 年に金環食。今年は日本人の 7 割が観測可(晴れなら)。
 - ・八王子:金環開始 7 時 31 分 40 秒、終了 7 時 36 分 39 秒。
 - ・富士森高校では一般の人にも観測を可とする。
 - ③中学生のころ見たかった 6 つの天文現象:長年願うと願いはかなうもので、もう 5 つまでは実現しました。未実現は銀河系内超新星の観測。
 - ・大彗星:1976 年に長野県でウェスト彗星を観測。
 - ・流星雨:2001 年にしし座の流星雨を観測。満月より明るい火球もあり、1 時間換算で 1 万個もの流星雨。次は 2099 年に同程度の流星雨が見える見込み。
 - ・皆既日食:2009 年 7 月 22 日に小笠原近海の船上で観測。空が新宿の夜空よりも暗くなり 1 等星は勿論だが、幾つかの 2 等星もみえた。皆既日食が始まると西空から大きな暗闇が迫り、周りを覆うことで恐怖を感じた。
 - ・オーロラ爆発:2003 年、満天にオーロラが上から降り続ける光景を見た。
 - ・人類で一番最初に見る星:1991 年に新しい小惑星を発見。以後 52 個を発見。
2. 小惑星「高尾天狗」と「夕やけ小やけ」の誕生
- ①八王子は星のふるさと:高校時代の陣馬山合宿が天体観測の原点。
 - ②小惑星の発見方法:小惑星は黄道近傍の 12 星座に多くあり、シュミットカメラで狙いをつけ



て1回は通常に、その約10分後にもう1枚撮影します。二つの画像からコンピュータ(昔は目視)でチェックするという方法で行います。

小惑星は既に30万個ほど発見されています。トリノスケール(地球近傍天体による災害の指標)では、100m級小惑星(関東地方が壊滅)は数千年に1回、1km級(1国が壊滅)の小惑星は数十万年に1回、10km級(人類が滅亡)の小惑星は数千万年~数億年に1回地球に衝突するそうですが、今後100年以内は大丈夫です。

③命名までの道筋 時間がかかる番号登録:小惑星が見つかりと既知のものと照合し、新しいものと判ると、更にもう1夜観測して確認した上で、スミソニアン天文台に連絡し仮符号をもらいます。10年後に軌道誤差が20秒以内に収まると正式に番号登録がされます。

3. 宇宙に行く星の仲間

①日本人初の船外作業 土井隆雄宇宙飛行士(早大では先輩、東大に入り同学年になる)

②月面探査車で月面探検 吉田和哉東北大教授(入笠山天体観測所の仲間の一人)

4. 日本の自然

①豊かで多彩、そして繊細な日本の自然

②自然と折り合いをつけてきた人々の文化

5. 自然の災害

①地震、火山、台風の三大災害を受ける珍しい国:地震と火山活動の原因・・・日本近海のプレート運動

②東北地方太平洋沖地震と首都近郊の活断層:貞観地震でみると、その後に隣接するプレート内の大地震は起こっていないようだ。むしろ後で内陸地震が発生している。昨年の大震災で東京は北東へ約20cm、八王子は約10cm動いた。

・神縄・国府津一松田断層:過去に1703年、1782年、1855年、1923年(関東大震災)と地震発生。いやな予感がするが、1923年に歪が大きく解放されたので間隔は開きそう。津波は今まで過小評価されてきた可能性がある。鎌倉の大仏が津波で流された記録があり、これからは15~20mの津波が推定される。

・三浦半島断層群:活動が心配されています。

・牛伏寺断層:糸魚川静岡構造線上にあり地震発生確率が高い。直前は762年に動き周期は1200年といわれている。1回で約7m動きM8級の地震が推定される。

・立川断層は動くか?:前回動いたのは紀元1000年以降、周期は5000年位といわれる。発生すると八王子の震度は6程度。個人的には近い将来には動かないと推定している。昨年の大震災で北東に動いたので圧縮力は減少した可能性もある。

・南海トラフに沿った大地震はM9クラスの巨大地震になるか:東海地震(周期約150年)は前回から150年経過しており、何時発生してもおかしくない。東南海地震(周期約100年)は1944年、南海地震(周期約100年)は1946年に発生したので次回はもう少し先になる。怖いのは東海地震の発生が遅れると3つの地震の連動の可能性がありM9クラスとなって、日本の総人口の7割に影響が及ぶ大変なことになること。私は東海地震が早めに単独で発生することを願っている。単独なら八王子の震度は5強程度。

なお、最近発見された高知県土佐市の蟹ヶ池の地震の痕跡では、約2000年前に50m級の津波が発生したとされており、3連動に加えて更に琉球列島までの岩盤が破壊されM9.5クラスの地震が発生したと推定されている。これは、昨年の大震災よりも更に巨大でチリ地震クラスの最大級地震である。

③火山の噴火:昨年の大震災と連動する可能性は小さい。東海地震でも同じ。

6. 地学は日本人の必修科目

①子どもは宇宙や自然が大好き・・・なのに理科嫌い進行中

②日本で生きるための常識が危ない

③1000年は一瞬

④八王子「宇宙の学校」へ期待する:理科教育が危機的な状況にあります。「宇宙の学校」で子どもたちに理科の楽しさを教えていただけるのは、素晴らしいことだと思っています。

11. プロバスソング斉唱

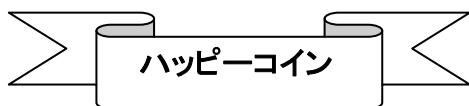
12. 閉会の挨拶 吉田副会長

ただ今は、平澤先生の特別講和で、前半は非常に優雅な星の観測のお話を、後半は一転して地震・津波という足元に係わる災害のお話を伺いました。時節柄災害の方に気持ちが行きがちで、なんとなく落ち着かない思いです。

お話にありました高知県土佐市蟹ヶ池の大津波の痕跡は昨日 TV で紹介があり M9 級ということでした。徳島や三重にも同様な跡があるそうです。

必要以上に悲観することは避けなければなりません、用心はしておくべきだというのが私の感想です。

佐々木年度も半ばをすぎましたが、これまでの活動は極めて順調でした。後半は地域奉仕委員会が推進する「生涯学習サロン」が活動の中心となりますが、大きな事業でありますので、会員全員の協力をよろしくお願いします。



◆「宇宙の学校」は、いよいよ閉講式をむかえます。ここまで、順調な進行できました。

下山 邦夫

◆色々な事があった平成23年も過ぎた。今年は良いことがある様頑張りたい。濱野 幸雄

◆辰年です。元気に躍動する年でありますように……。龍は実体がない生物、とてもイメージが広がります。古川 純香

◆青学大5位健闘。新春箱根駅伝に於いて、母校青山学院大は健闘し5位入賞、来年のシードを獲得。来年こそは優勝を狙うぞ。宮崎 浩平

◆昨年の暗い一年から、一転新しい年に希望をこめて。吉田 信夫

◆男性合唱団コーラル・プレアデスのミニコンサート、「お山の大将」コンサートも無事終了。ご来場いただいた皆様ありがとうございました。

武田洋一郎

◆年頭に当たり、クラブ会員一同のご健康とクラブ事業の一層の発展を祈ります。佐々木研吾

◆俳句同好会で初めて作った二句です。

(題：菊) 煌いて 香りかぐわし 菊の花

(題：自由) 空高く 群雀飛びて 日のくるる

阿部 治子

◆プロバスよ、今年もよろしく。浅川 文夫

◆元旦、目を覚ましたら生きていました。

皆様おめでとうございます。荒 正勝

◆・東洋書道芸術学会の「方円書初展」が明日13日(金)から15日(日)までいちょうホールで開催されます。ご高覧宜しくお願いします。

・「書道楽しむ会」をめじろ台駅前の“めじろ台第一会館”で今年1月から開設しました。土曜日の午前中に開いておりますので、どうぞご来館ください。阿部 和也

◆孫娘が成人式を迎えました。

晴れやかな振袖姿に乾杯。東山 榮

◆ちょっと大袈裟ですが、麻雀同好会で前人未踏の二連覇を達成しました。次は三連覇の夢を抱いて挑戦。応援よろしく。東山 榮

◆本年もどうぞよろしくお願い致します。

杉山 友一

◆健康が一番、元気で頑張りましょう。今年もよろしくお願い致します。川村 真

◆プロバスクラブの更なる発展を記念して。

土井 俊雄

◆謹んで新春のお慶びを申しあげます。難事を克服して本年がよき年でありますように!

佐々木 正

◆娘夫婦が、我が家から車で5分の近場に家を建て、昨年12月に無事引越し完了。馬場 征彦

◆昨年11月に環境省が発表した、全国の“河川水質改善度合い”のランキングで、我が地域の“湯殿川が5位”に入りました(広報はちおうじ2012年1月1日号11頁)。まことに「塵も積もれば山となる。ごみ集めれば鮎戻る。翡翠、白鷺、かいつぶり、青鷺住まいて人和む」です。山形 忠顯

◆一富士二鷹三茄子の初夢は小学校時代より知っておりましたが、この歳で続きがあることを知りました。四扇五煙草六座頭だそうです。

野口 浩平

◆妻が一ヶ月の入院で無事退院。長年悩まされてきた腰痛が完治し、大満足の新年を迎えることができた。今年はい句とプロバスに専念できそうな予感。

お茶二つ 思いは一つ 日向ぼこ 河合 和郎

第二部:新年懇親会(18:40~20:15)

宮崎元会長の司会で進行。

1. 会長挨拶

佐々木会長

昨年の八王子「宇宙の学校」のスタートは記念すべきエポックでした。初心に帰って額に汗して雑巾がけする心がけが成功のもとになりました。学習サロンを加えた2大イベントになっていくと期待しています。

「生涯学習サロン」は、準備が整いリピータへ案内を発送しました。読売新聞に適切な内容の紹介記事が載りましたし、ショッパー紙と広報はちおうじにも案内が掲載されました。

「卓話」は、研修・例会委員会と話し手の努力で充実し良い内容が続いています。テーブルスピーチは経験・実践に基づいた肩のこらないものを気軽に持ち味を出して担当していただければと思います。

「プロバスだより」も充実してきています。特に投稿文が素晴らしい。どこに出しても恥ずかしくない内容です。

「同好会活動」も活発化してきています。

このような充実した年度に会長の任にあることは幸運であります。今年度後半に向けても役員一同で努力して参りますのでよろしく願います。

2. 乾杯

杉山前会長

明けましておめでとうございます。

昨年は大変な1年でした。大震災と原発事故の被災者の皆様は大変つらい新年を迎えておられると思います。1日も早い復興を願うばかりです。

私どもプロバスクラブ員は元気で新年を迎えましたが、そうした被災者の方々にも思いを馳せながら、今年1年も元気澁刺としたクラブであってほしいと願っています。乾杯!

3. 会食懇談

4. ビンゴゲーム・カラオケ

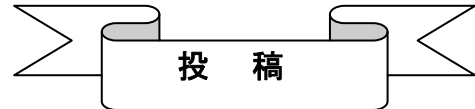
宮城副幹事のリードで新趣向のビンゴゲーム(全員に景品が出ました)を楽しみ、カラオケでは最後に全員で“北国の春”を熱唱しました。

5. お開きの挨拶

吉田副会長

年の始めの新年会、本当に楽しいひと時をありがとうございました。今年も頑張っていきたいと

思います。



伊太利好き

澤渡 進



小生のイタリア好きは少々度を越しているかも知れない。仕事で深く関係したことが影響しているかも知れないが、イタリアの良さは、古代ローマの時代から中世、近世に至る歴史に裏打ちされた景観・風情が今なお多く残されていることが第一に挙げられる。またイタリア人のお節介で、ちょっとずる賢くも陽気で人好きの国民性が良い。それにイタメシとワインは世界一である。

今までに数度イタリアを訪れた中で、“ちょっと気づいたこと”をCOFFEE BREAKとして以下コラム風に記してみたい。

… COFFEE BREAK I イタリアの小さな街 …



ヴェネチアから特急で30分のところにヴィツェン

ツァという街がある。今は人口10万人程の地方都市であるが、16世紀イタリア建築界の鬼オアンドレア・パッラーディオが彼の弟子たちを動員して、彼の理想とする街づくりをしたことから、建築や街並みに興味を持つ人々の間で有名な街でもある。

建築に疎い小生にとっても、この街の景観には感動する。宮殿・教会・劇場等の建築物、商店街、広場等々、“中世”が街中に詰っている。そして広場を囲む帽子屋の帽子の格好良さ、隣のピザ屋のパリパリの薄生地に、黄色のチーズと赤いトマト、緑のルーコラが乗ったマルゲリータ、小さな広場のおばちゃん達の井戸端会議、どれをとっても“**This is イタリア**”である。

… **COFFEE BREAK II** イタリア人 …



一般的にイタリア人といえば、チョツといい加減で、陽

気で、遊び好きと思われがちである。以下小生の経験したイタリア人像、二態。

- ①ミラノのビジネスマン： 仕事の交渉相手となった男だが、かなり手強かった。朝から晩までオフィスに居座り、自説は曲げない、計算高い、粘り強い、提携にあたり信頼に足る男であった。
- ② 公園のじいさん： サングラスを掛け公園のベンチに座っているじいさん。話しかけてもボソボソとあまり面白くないご様子。帰りがけに女房がいっしょに写真を撮って欲しい旨お願いしたところ、何とじいさん、サングラスを外し、髪を撫で付けてポーズをとった。

…**COFFEE BREAK III** 列車の検札確率…



イタリアの国鉄駅には改札所がないから、列車に乗り

込むことは誰にでも出来る。それをチェックするため、乗客は乗車時に乗車券に日付と時間を刻印することを義務づけられている。乗車駅と降車駅の改札で乗車券をチェックされるわれわれには、

これで無賃乗車が防げるのかと興味深い。

個人旅行の際、都合6往復の特急列車の、車掌の検札頻度を調べてみた。結果、検札は6回中1回。これを多いと見るか、少ないと見るか、イタリア人に聞くのは忘れてしまった。キセルがバレれば乗車運賃の10倍は取られるというこの制度。10分の1の確率で不正が取り締まれば国鉄の損得勘定は±0という式が成り立てば、矢張り6回に1回は適切な検札頻度なのかも知れない。

… **COFFEE BREAK IV** ピッツァの話 …



ピッツァという食べ物。その源流は古代ギリシャの

時代からあったものらしい。いまのように生地を丸く伸ばして、具を乗せて釜で焼くスタイルは17~18世紀ナポリが初めらしい。今もナポリには『真のナポリピッツァ協会』という機関があって、使用する素材、作り方、焼き方を厳しく審査していると聞いている。

ナポリのピッツァはふっくらとした厚めの生地で、モチモチ感を大切にしますが、このごろは薄手のパリパリピッツァが幅を利かしている。協会のお偉方の苦々しい顔が目浮かぶ。

最近のカプリチオーザといって、乗せる具をシェフの創作に任せたものに人気があるようだ。“**Simple is best**”モツァレラチーズにトマトのマルゲリータ、トマトとオレガノだけのマリナーラこそピッツァの王道と思うが如何なものだろうか。たかがピッツァ！されどピッツァ！である。

編集後記：変化の年と言われる2012年、良い変化を望むや切なり。今号は新年会、特別講演等盛りだくさんの内容となり、紙面の都合で写真を大幅に割愛させて頂きました。 馬場征彦